町長室からこんにちは No.96

一宮町長
馬淵 昌也

去る5月21日に、福島県東白川郡矢祭町の元町長である、根本良一氏が逝去されました。わたくしは、地方自治の先達として、深いお付き合いを頂戴していたので、5月26日に行われたご葬儀に、家族とともに出席して参りました。

根本良一氏は、矢祭町で家具店を営んでおられ、1983年に町長となられました。以後、2007年に勇退するまで、6期24年間矢祭町を率いられました。その中で、特に印象鮮烈なのは、2001年に「合併しない宣言」を発出されたことです。当時、平成の大合併といわれる市町村合併が、総務省の主導で行われていました。根本町長は、「合併しない方が町民の皆さんは幸福になるだろうし、生活も豊かになるだろう」という判断をして、「合併しない宣言」を出されたのです。

この主張は、当時の国策に真っ向から反抗するものだということで、当時の総務大臣であった片山虎之助氏に、根本氏は、「非国民だ」と非難されたそうです。

その後、矢祭町では、根本氏の指揮下、「自立の町づくり」が強力に推し進められ、そこでの各種の努力は、他の自治体の模範となりました。

2008年、当時の一宮町も、長生郡市の合併問題で揺れていました。わたくしは、合併の是非を住民が当事者として考える必要があると思い、ホテル一宮シーサイドオーツカをお借りして、シンポジウムを企画しました。合併推進役の総務省から課長補佐、合併に反対の地方財政と地域経済の専門家おふたり、そして根本氏をお招きして、合併のメリットデメリットについて熱く語っていただきました。350人もの聴衆を集めて、このシンポジウムは、合併を慎重に考えようという一宮町、そして長生郡市の民意の形成に、大きく寄与したと、わたくしは今なお自負しています。

そして、昨年、一宮町で「小さくても輝く自治体フォーラム」が開かれ、根本氏がゲストとして見え、15年前と同じ会場で、「合併などの重大事案は、民意をもって決すべし」、との地方自治の大原則を語ってくださいました。

わたくしとしては、一宮町が現在のとおり、自立した町でありえたことに、根本氏の果たしてくださった役割は、大変大きなものがあったと思います。ご恩をいただいた一人として、心より、ご冥福をお祈り申し上げたく存じます。